

整備事業評価書

(都道府県名: 静岡県)

政策目的	事業実施 地区数 ア	評価対象 外地区数 イ	評価対象 地区数 ア-イ	成果目標の平均達成率	都道府県による点検評価(所見)	国による点検評価
産地競争力の強化	8	0	8	127.8	総合的には、目標を達成しており、事業の効果が期待できる。達成率の低い事業については、今後目標達成のための具体的な取組の実行に向けて支援を行っていく。	成果目標の平均達成率は127.8%で目標を達成。事業主体別の成果目標を達成できなかった地区については県による改善指導が必要
経営力の強化	0	0	0	-	/	-
食品流通の合理化	/	/	/	/	/	/

2 整備事業
(産地競争力の強化を目的とする取組用)

(静岡県 平成21年度)

市町村名	事業実施主体名	政策目的	取組の分類	作物等区 (対象作物・畜種等名)	政策目標	成果目標の具体的な内容	事業実施後の状況					成果目標の具体的な実績	事業内容 (工種、施設区分、構造、規格、能力等)	事業費 (円)	負担区分 (円)				完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	
							計画時 (平成17年)	1年後 (平成18年)	2年後 (平成19年)	3年後 (平成20年)	目標値 (平成20年)				達成率	交付金	都道府県費	市町村費				その他
島田市	乗用組合D-UNION	産地競争力の強化	産地競争力の強化に向けた総合的推進	畑作物・地域特産物(茶)	生産性向上	【畑作物・地域特産物】(産地の育成)茶園管理作業における労働時間の削減	122.41時間/10a	—	109.73時間/10a	86.91時間/10a	86.93時間/10a	100.0%	茶園管理作業における労働時間が29.0%削減した	○共同利用機械整備 乗用型茶複合管理機1台	4,588,500	1,529,000	0	0	3,059,500	H19.2.28	乗用型茶複合管理機の導入により、労働時間の削減が図られ、併せて生産費の削減にもつながった。	導入した乗用型茶複合管理機を活用して効率的な茶園管理がなされており、労働時間の減少に役立っている。作業のマニュアル化や作業委託の取り組み等優良な取組がなされている。
島田市	金谷第二茶農業協同組合	産地競争力の強化	産地競争力の強化に向けた総合的推進	畑作物・地域特産物(茶)	生産性向上	【畑作物・地域特産物】(産地の育成)茶園管理作業における労働時間の削減	122.41時間/10a	—	115.33時間/10a	86.39時間/10a	86.93時間/10a	101.5%	茶園管理作業における労働時間が29.4%削減した	○共同利用機械整備 乗用型茶複合管理機1台	4,578,000	1,453,000	0	0	3,125,000	H19.2.28	乗用型茶複合管理機の導入により、労働時間の削減が図られ、併せて生産費の削減にもつながった。	導入した乗用型茶複合管理機を活用して効率的な茶園管理がなされており、労働時間の減少に役立っている。
磐田市	ヤマニ共同	産地競争力の強化	産地競争力の強化に向けた総合的推進	畑作物・地域特産物(茶)	需要に応じた生産量の確保	【畑作物・地域特産物】(戦略的地域の育成)茶葉の生産量の増加	274,500kg年間生産生産数量	—	246,000kg年間生産生産数量	290,265kg年間生産生産数量	338,550kg年間生産生産数量	24.6%	茶葉の生産数量が5.7%増加した	○共同利用機械整備 乗用型茶複合管理機6台	32,000,000	10,666,000	0	0	21,334,000	H19.2.15	高品質の茶を生産するための、みる芽摘採により生産数量は目標値に達しなかったが、共同利用による計画的な茶園管理・摘採の実施により生産品質の向上につながった。	みる芽摘採の徹底等により、生産数量は伸び悩んだものの、受益面積は増加している。また、整枝、摘採、防除、深耕の各作業について、乗用型茶複合管理機の共同利用により効率的な茶園管理が行われている。今後は、県としても、基盤整備を市及び農協と連携して推進し、受益面積のさらなる拡大により生産数量が目標に到達するよう指導を行っていく。
掛川市	松井製茶共栄会茶園管理組合	産地競争力の強化	産地競争力の強化に向けた総合的推進	畑作物・地域特産物(茶)	需要に応じた生産量の確保	【畑作物・地域特産物】(戦略的地域の育成)茶葉の生産量の増加	145t年間生産生産数量	—	191t年間生産生産数量	203t年間生産生産数量	175t年間生産生産数量	193.3%	茶葉の生産数量が40.0%増加した	○共同利用機械整備 乗用型茶複合管理機2台	8,137,500	2,712,000	0	1,220,000	4,205,500	H19.3.16	防除、深耕作業について、乗用型茶複合管理機の共同利用により効率的な茶園管理が行われた。	導入した乗用型茶複合管理機を有効に活用して、良好な茶園管理が行われている。夏場における適切な防除作業が実施され、夏茶以降の生葉の生育向上が図られ、秋冬番茶の収量が増加し、目標数値を達成した。

市町村名	事業実施主体名	政策目的	取組の分類	作物等区 (対象作物・畜種等名)	政策目標	成果目標の具体的な内容	事業実施後の状況					成果目標の具体的な実績	事業内容 (工種、施設区分、構造、規格、能力等)	事業費 (円)	負担区分 (円)				完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	
							計画時 (平成17年)	1年後 (平成18年)	2年後 (平成19年)	3年後 (平成20年)	目標値 (平成20年)				達成率	交付金	都道府県費	市町村費				その他
掛川市	(農) グリーンティ山崎	産地競争力の強化	産地競争力の強化に向けた総合的推進	畑作物・地域特産物(茶)	需要に応じた生産量の確保	【畑作物・地域特産物】(戦略的地域の育成) 荒茶生産数量の増加	42,509kg 年間荒茶生産数量	-	44,166kg 年間荒茶生産数量	53,915kg 年間荒茶生産数量	51,500kg 年間荒茶生産数量	126.8%	荒茶生産量が26.8%増加した	○耕種作物共同利用施設整備・農産物処理加工施設(荒茶加工機)一式(200k 2ライン)	157,500,000	75,000,000	0	7,500,000	75,000,000	H19.2.28	新しい機械により高品質な茶の生産が行われており、安定した荒茶価格で取引されている。また、生産数量も順調に増加している。通期摘採を心がけ、共同茶園については前例の生産に努め、生葉摘採のピーク時における調整をおこなうことなく、生葉収量で前年対比114%(217,079kg→248,198kg)となり、平成20年度の成果目標を達成することができた。	新しい荒茶加工機の導入により荒茶品質の安定化を果たし、茶商の要望に応じた荒茶の製造を行い、安定した価格での取引を行っている。組合内に兼用型管理機利用の組合を組織し、兼用型管理機の共同利用や、共同摘採の一部導入など、優良な取り組みがされている。
掛川市	(有) 掛川グリーンファーム	産地競争力の強化	産地競争力の強化に向けた総合的推進	畑作物・地域特産物(茶)	需要に応じた生産量の確保	【畑作物・地域特産物】(戦略的地域の育成) 茶生葉の生産数量の増加	168,978kg 年間生葉生産数量	-	207,131kg 年間生葉生産数量	248,633kg 年間生葉生産数量	205,000kg 年間生葉生産数量	221.1%	茶生葉の生産数量が47.1%増加した	○共同利用機械整備 兼用型茶複合管理機(兼用型防除・施肥・深耕機) (兼用型防除・施肥機) 各1台	10,395,000	3,300,000	0	1,485,000	5,610,000	H19.3.29	適切な防除が行われ高品質な生葉の生産が行われている。利用状況は良好で、平成20年度目標生産量を達成できた。	導入した機械を有効に活用して、良好な茶園管理が行われている。受益面積も計画時から大幅に増加するなど、地域のモデル的な取り組みとなっている。
伊豆の国市	伊豆の国果菜土壤消毒施設利用組合	産地競争力の強化	産地競争力の強化に向けた総合的推進	野菜(トマト、ミニトマト)	生産性向上	「各作物共通」病害虫による農作物の被害防止 事業実施地区における土壌病害の減少	5.5%(平成16年)	2.0%	1.9%	1.8%	2.0%	105.7%	土壌病害の発生率が3.7%減少した。	耕種作物共同利用施設整備 農作物被害防止施設 熱水土壤消毒施設 基礎蓄能力 300nf /Shr	7,192,500	3,596,000	0	0	3,596,500	H18.8.28	昨年に引き続き、現地調査で青枯病、フザリウムによる萎凋病の発生は少なく、導入効果は本年も十分あったと判定される。	計画どおり成果目標を達成することができた。
森町	JA遠州中央 稲わら供給組合	産地競争力の強化	産地競争力の強化に向けた総合的推進	耕種作物活用型飼料増産(酪農・肉用牛)	生産性向上	稲わら収集面積の増加(10.5%)	76ha	90.6ha	85.1ha	88ha	84ha	150.0%	稲わら収集面積が15.7%(12ha)増加	畜産物共同利用施設整備 飼料作物関連施設 稲わら保管・乾燥施設 鉄骨造平屋建1棟 1081nf	22,600,000	11,300,000	0	0	11,300,000	H18.10.3	施設整備により、稲わらの収集効率が高くなった。今後は稲わらの収集とMCSの作付面積を増やし、計画的な収集方法を検討する。	施設整備により稲わら収集の効率が高くなった。今後は稲わらの収集とMCSの作付面積を増やし、計画的な収集方法を検討する。